

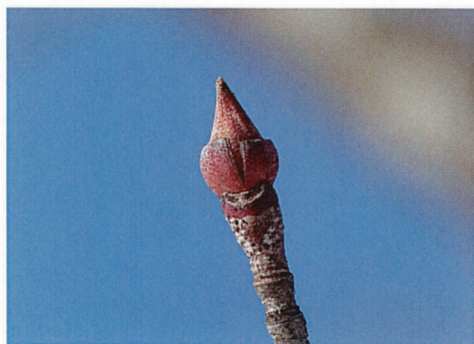
県民の森 植物紹介 ③9ーヤマボウシ（ミズキ科）ー



梅雨時、白い花が群れて咲きます。花びらに見えるのは葉が変化した総苞（そうほう）。4枚の総苞の中心に薄緑色の小さい花が30個ほど丸く集まって咲きます。その様子を白い頭巾をかぶった僧兵の姿に例えて「山法師（やまぼうし）」と名付けられました。近縁種のハナミズキは北米産、ヤマボウシは日本や朝鮮半島原産です。ハナミズキの総苞は先が丸く窪んでいますが、ヤマボウシは先が尖っていることから見分けられます。

秋に出来る果実は、甘くてとても美味しいです。赤く色づいて柔らかく熟した時が食べごろ。生食のほか、ジャムや果実酒などにも利用されています。また、熟した実はツキノワグマの大好物です。表面にイボイボがあり、よく見るとハチの巣状の模様があります。ハチの巣模様は個々の花の境界、突起は雄しべの名残りです。ヤマボウシの実は1個の実のように見えて、じつはたくさんの実の集まり（集合果）なのです。よく似ているハナミズキの実はまったく異なり、個々の花がそれぞれ楕円形のツヤツヤした赤い実になります。

実が落ちたあと、晩秋に鮮やかに紅葉します。冬芽はトンガリ帽子のようで愛らしいです。どの季節にも楽しませてくれるヤマボウシ。園内では昭和の森などで見る事が出来ます。



ヤマボウシ冬芽 2020年3月27日



花 2020年6月16日



花中心部分 2020年6月25日



実 2019年9月16日



実 2019年9月12日



紅葉 2019年10月28日